アスパラガスを食害する ジュウシホシクビナガハムシについて

本庄四郎

筆者の自給畑には，いろいろな作物が育っている．なかでもアスパラガスは，播種して苗を育ててから，食用に供することができるまでに3年を要する手間のかかる作物だ．宿根なので，毎年食べることができる．

ところが，ここ数年，形のいびつなものや畑でちりちりに枯れてしまったものが目立つようになった．いったいどういうことなんだろうと畑で観察すると，おびただしい数の，赤色に黒い斑点のある甲虫が，アスパラガスの若い芽のあちこちで交尾していた．捕まえて甲虫図鑑で調べると，ジュウシホシクビナガハムシ Crioceris quatuordecimpunctata であった．毎日のように畑には行けないが，再び出かけたときには，まるでイネドロオイムシのような多数の幼虫が，アスパラガスの新芽を食害していた．

ところが，アスパラガスが大きく茂りだす7月ごろには，このハムシの姿はどこへ消えたのか目につきにくくなった．交尾する成虫の出現期と，幼虫の食害期などが，わりと短期間に集中しているのがよくわからないところである．

神戸大学の磯野昌弘氏によると，本種は珍しい部類のハムシで，記録もそんなにないらしい．但馬地方では，彼自身による浜坂町城山（1976．6.13）の記録のみであろう．彼が筆者に送ってくれた文献には，分布が局地的なことが記されていた．しかし，筆者の実感によるとアスパラガスの大害虫になることは間違いない．日高町の神鍋高原，温泉町の畑ケ平高原，その他いわゆる高原野菜としてアスパラガスを生産しているところでは，いったいどうなのか是非調査してみたい．また，本種の生活史についても不明なことばかりなので，今年は是非とも畑にフィールドノートを持参しようと考えている．

資料を送ってくださった磯野氏に，この場を借りて感謝申し上げたい．

＜採集データ＞

ジュウシホシクビナガハムシ　Crioceris quatuordecimpunctata

幼虫・成虫多数，1988年5～6月，兵庫県城崎郡竹野町和田